希望つなぐ交換日記

避難児童、たくましく

宮城・女川

東日本大震災後、図書室を避難所として暮らす宮城県女川町立女川第一小６年の児童４人が交換日記を始めた。日々の出来事のほか、不安や家族の消息を案じる気持ち、親友とのつらい別れなどの一方で「これからも笑顔が絶えない生活をしたい」とつづられている。苦難の中でも希望を忘れず、たくましく成長する様子がうかがえる。

不安や別れ、恋、本音…

東日本大震災後、交換日記を始めた女川第一小６年の（左から）遠藤龍虎君、橋本昇洋君、阿部萌々子さん＝20日、宮城県女川町

交換日記が始まったのは、震災から5日目の15日。遠藤龍虎君(12)が「避難所生活を記録に残したい」と言い出し、保育園のころから仲良しの橋本昇洋君、阿部萌々子さん、阿部豊樹君＝3人とも(12)＝と毎日朝夕2回、A4のノートに書くことを決めた。

「みんなの顔がみられてすごくうれしい」（昇洋君）、「夜に肝試しをした。2階がとても怖かった。理科室のドアにガイコツが…ギャーッ」（萌々子さん）。

朝のラジオ体操、将棋を指したこと、そして好きな人への思い―。友達と一緒に過ごせる喜びや大人には言えない本音が記されている。

とはいえ、心配や不安も大きい。「おばあさんも早く見つからないかな。この先どうなるのかなぁ」（昇洋君）、「やっぱり一生が変わった」（豊樹君）。

17日の昼食後、豊樹君が泣きそうな顔で「転校するから」と告げた。龍虎君は返す言葉が見つからない。その日のうちに去った豊樹君を、涙をこらえ「じゃーね」と笑って見送った。

その日の日記。「みんなは号泣です。一日でも（長く）女川にいてほしいな」（昇洋君）。「トヨはうちの中でとても大切だったんだな」（萌々子さん）と別れを惜しむ言葉が並んだ。

図書室には、15人前後の児童が暮らす。まとめ役でもある龍虎君が家をなくしたのは、近所の家からのもらい火に続いて2度目。母親のえりさん(45)が引っ越しを持ち掛けてきた時、瞬く間に壊滅し、がれきの山となった町のショックを受けた。

被災したスタッフもいて職場は沈みがちだったが、まずは自分たちが市民に元気を届けようと決意。市内を歩いて取材に励んでいる。木村さんは「復興に向けて頑張る人やコミュニティー放送ならではの小さな情報まで届けたい」と意気込む。

周波数は77・4メガヘルツ。22日は朝から厚い雲に覆われ、午後は湿った雪や雨が降るところが多いでしょう。ただし、本格的な飛散の時季を迎えていますので、マスクや眼鏡などで対策をとった方がよいでしょう。

（日本気象協会東北支局）

岩手日報社は今春、進学・入学する学生・生徒を対象に辞典、学習参考書を紹介する「第59回学習図書フェア」を開催中です。期間中、紙上で辞典、学習参考書を紹介するほか、協賛書店に「学習参考書や辞典コーナー」を設けます。この機会にご活用ください。

学習図書フェア

5月15日まで協賛書店

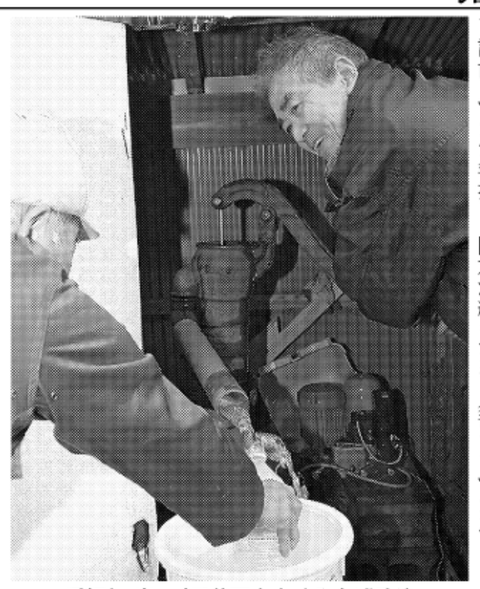
◇期間　5月15日（日）まで開催
◇会場　県内協賛書店
◇主催　岩手日報社
◇後援　県教育委員会　辞典協会　学習書協会　学習図書フェア参加出版社　日教販　日教販特約書店

岩手日報社

手押しポンプが威力

徳田さん、井戸水提供

断水続く大槌



手押しポンプで井戸水をくみ上げる徳田健治さん（右）。断水の続く地域の住民に喜ばれている＝大槌町大槌

東日本大震災で被災した大槌町新町の徳田健治さん(61)は避難先に設置していた手押しポンプを活用し、井戸水を地域住民に提供している。同町は全域で断水が続くため、多い日は100人近くが利用。人力に頼る昔ながらの手法が威力を発揮している。

徳田さんは自宅が津波で流されたため、11日から同町大槌の作業小屋に家族と避難。井戸は1973年の干ばつの際、約8メートルの深さまで掘った。今回の地震でも水が濁ることはなかった。

避難してきた時、手押しポンプのベルト部分が壊れていたため、自分のズボンのベルトを手ごろな長さに切って代用した。水不足に悩む近所の住民に声を掛け、自由に利用してもらっている。

最近になって給水車も入るようになったが利用者は途切れない。入所者ら約40人が避難する近所のデイサービス「城山の杜」の佐々木薫所長は「洗濯や炊事に使う量が多いので助かる」と感謝する。

町内には井戸水を使う自家水道もあるが、多くはモーターで取水するため停電の続く今は使用できない。徳田さんは「人力で水を確保する手段を残しておいてよかった」と非常時にも前向きだ。

臨時ラジオ、市民元気に

宮古　研究会が放送を開始

「宮古に笑顔を取り戻そう」。宮古市のみやこコミュニティ放送研究会による臨時災害ラジオ「みやこさいがいエフエム」は21日、放送を開始した。宮古市の復旧状況や生活関連情報などを細やかに伝える。

同日は試験放送として午後2時にスタート。停電や断水の状況、ごみの収集日や仮設住宅などの情報を幅広く伝えた。

パーソナリティーの木村彩子さん(34)＝宮古市宮園＝は、昨年まで三陸鉄道の広報として沿岸のPRに奔走。被災は免れたが、がれきの山となった市内にショックを受けた。

被災したスタッフもいて職場は沈みがちだったが、まずは自分たちが市民に元気を届けようと決意。市内を歩いて取材に励んでいる。木村さんは「復興に向けて頑張る人やコミュニティー放送ならではの小さな情報まで届けたい」と意気込む。

周波数は77・4メガヘルツ。22日は朝から厚い雲に覆われ、午後は湿った雪や雨が降るところが多いでしょう。ただし、本格的な飛散の時季を迎えていますので、マスクや眼鏡などで対策をとった方がよいでしょう。

（日本気象協会東北支局）

地域密着型で宮古市の復旧情報を届ける木村彩子さん

放送エリアは市街地から宮古湾岸部までカバーする。22日からは午前9時半～午後1時、午後2時～同4時に放送する。

情報収集するボランティアや市民からの情報も募集。申し込みは同研究会のメール（miyakofm774@gmail.com）へ。

県内13市の天気予報

＊右端は気温（左上は今日の最高、右下は明日の最低）
日本気象協会東北支局発表

	6時	9	12	15	18	21	0	3	6	9	
久慈	☀	☁	☁	☃	☃	☃	☁	☁	☀		6 -2
二戸	☀	☁	☁	☃	☃	☃	☁	☁	☀		7 -3
八幡平	☁	☁	☂	☃	☃	☃	☁	☁	☁		5 -5
盛岡	☁	☁	☁	☃	☃	☃	☁	☁	☀		6 -3
花巻・北上	☁	☁	☁	☂	☃	☃	☁	☁	☁		7 -1
遠野	☁	☁	☁	☃	☃	☃	☁	☁	☀		6 -3
奥州	☁	☁	☁	☂	☃	☃	☁	★	☀		6 -1
一関	☁	☁	☁	☂	☁	☁	★	★	☀		6 -1
宮古	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☀		7 -2
釜石	☁	☁	☁	☂	☁	☁	☁	☁	☀		6 -1
大船渡 陸前高田	☁	☁	☁	☂	☁	☁	★	★	☀		6 -1

概況　22日は低気圧や前線の影響で湿った空気が流れ込む。県内は次第に雲が厚くなり、午後は内陸を中心に雪や雨の降る所が多い。海上は南西の風が吹く。海上の波の高さは、22日は波1・5メートル。23日は波1・5メートル。

天気図内のマークはきょうの全国の天気

23日(水)	旧2月19日	宮古	(潮位cm)	24日(木)	旧2月20日	宮古	(潮位cm)
	―中潮―	満	4:44 (50)		―中潮―	満	5:13 (51)
盛岡	日出 5:35	潮	18:26 (24)	盛岡	日出 5:34	潮	19:21 (14)
	日入17:50	干	11:42 (-87)		日入17:51	干	12:25 (-82)
	月出22:23				月出23:29		
	月入 7:15	月齢 18.3	潮 23:28 (-19)		月入 8:03	月齢 19.3	潮 23:53 (-11)

震災は「天の恵み」

大阪府議会議長が発言

大阪府議会の長田義明議長が、東日本大震災で湾岸部の府咲洲庁舎（大阪市住之江区）に被害が出たことに関連し「（震災は）天の恵み」などと発言していたことが21日、分かった。長田議長は橋下徹府知事が推進する同庁舎への全面移転構想に反対している。

長田氏は取材に対し「地震が起きてよかったとの趣旨ではなく、その場でも『言葉は悪いが』と断っている」と釈明。「支援者を前にした発言とはいえ、出してはいけない言葉だった。被災者の方々にお わびしたい」と謝罪した。長田氏は4月の府議選に自民党公認で立候補を予定。20日に行われた同市鶴見区の事務所開きのあいさつで東日本大震災に触れ、「大阪にとっては天の恵み」「知事の考えが間違っていたことが示された」と発言した。

県内・全国の気温　21日（▲は平年比低）

	最高	平年比	最低	平年比	天気
岡古渡戸	8.0	0.5	2.8	4.8	曇
蕊野	―	―	―	―	―
上石	―	―	―	―	―
船	―	―	―	―	―
盛宮大	7.1	0.4	0.8	3.1	―
久遠北	8.8	1.6	3.1	4.6	―
釜	7.0	0.4	1.3	3.9	―
江	7.9	0.4	3.4	4.0	―
一	―	―	―	―	―
釧関	8.2	0.4	3.3	4.3	―
札	8.3	▲ 0.3	3.4	4.0	晴
八	7.1	4.3	0.5	5.1	晴
秋	4.8	0.6	1.1	3.8	曇
仙	8.0	0.8	2.0	3.0	雨
福	8.2	0.6	3.5	3.4	雨
水	9.4	0.0	4.7	3.7	雨
東	10.2	▲ 0.3	6.1	5.1	雨
新	9.5	▲ 2.8	6.9	5.1	雨
長	13.4	0.1	8.6	3.1	雨
静	8.3	▲ 1.4	7.4	5.1	雨
名	8.6	▲ 1.0	5.2	5.7	雨
金	17.1	2.2	14.4	8.4	雨
沢	17.2	3.1	10.1	5.8	雨
都	12.1	1.0	9.0	6.0	雨
阪	13.9	0.1	10.8	6.6	雨
島	13.8	▲ 0.1	10.7	5.0	雨
江	13.2	▲ 1.2	9.5	4.4	雨
知	9.6	▲ 3.1	8.0	4.7	雨
岡	19.4	3.2	12.7	6.6	雨
島	12.3	▲ 2.2	10.1	3.4	雨
鹿児	20.7	3.6	16.0	7.3	雨
那覇	25.4	3.7	20.6	4.0	雨

最高気温は15時現在。最低気温は盛岡から大船渡と全国は21―9時、二戸から一関が0―9時。天気は15時現在(宮古から一関と八戸は天気観測なし)

◇沿岸の水温　21日10時現在。（平均値）

山田湾	―度(―)	釜石湾	―度(―)
門之浜湾	―度(6.5)	野田湾	―度(―)

スギ・ヒノキ花粉予報　（22日）

盛岡市	やや多い	久慈市	やや多い
北上市	多　い	大船渡市	多　い
一関市	多　い		

飛散数速報（1平方㌢当たり）
（20日午前9時～21日午前9時）

盛岡市	5.6個	北上市	95.7個
久慈市	41.0個	大船渡市	497.0個

少ない　0～9個　やや多い　10～29個
多い　30～49個　非常に多い　50個以上

◆世界の天気

	天気	最高	最低
ソウル	(20日)	11	3
北京	(20日)	10	4
シンガポール	(20日)	30	23
ニューデリー	(20日)	25	18
ドバイ	(19日)	29	22
ロンドン	(19日)	12	5
パリ	(19日)	15	2
モスクワ	(19日)	1	−4
ニューヨーク	(19日)	15	3

（AP＝共同）

きょうの歴史

3月22日（火）

1896年（明治29）
日銀本店落成

東京・日本橋に日銀本店が完成した。石とレンガ造りのバロック式洋館で、お雇い外国人に頼らず日本人建築家による初の国家的建築。ロンドンで技術を習得した設計者辰野金吾は、この後、東京駅や、各地の銀行などを次々手がける。

1968年　パリ大学分校占拠

パリ大学ナンテール分校で、学制改革などをめぐって学生によるストライキと建物の占拠が始まった。5月、運動は大学本拠地ソルボンヌにも波及、労働者も巻き込んでベトナム反戦と管理社会否定を掲げる「5月革命」が起きた。

◇第3074回ナンバーズ抽せん結果（21日）

ナンバーズ3　138

ストレート	61,900円	(141口)
ボックス	10,300円	(848口)
セットストレート	36,100円	(238口)
セットボックス	5,100円	(1,770口)
ミニ	6,100円	(814口)

ナンバーズ4　8301

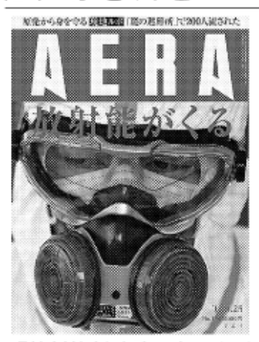
ストレート	934,200円	(27口)
ボックス	38,900円	(413口)
セットストレート	486,500円	(67口)
セットボックス	19,400円	(2,074口)

AERAの表紙「放射能」を謝罪

朝日新聞出版

「放射能がくる」とのタイトルで防護マスクの写真を表紙で大きく掲載した19日発売の週刊誌「AERA（アエラ）」3月28日号に対して苦情が寄せられ、出版元の朝日新聞出版が21日までにインターネット上で謝罪した。

同社は、短文投稿サイトのツイッターとホームページで「編集部に恐怖心をあおる意図はなく、福島第1原発の事故の深刻さを伝える意図で写真や見出しを掲載しましたが、ご不快な思いをされた方には心よりおわび申し上げます」との謝罪文を掲載した。



「放射能がくる」とのタイトルで防護マスクの写真を表紙で大きく掲載した週刊誌「AERA」3月28日号

看護師による こども救急相談電話

相談時間は毎日午後7時から11時まで。019・605・9000（県医師会）

不要不急なら給油は控えて

佐々木美代子　49歳　（盛岡市）

◇ガソリン入手のメドが立ってきましたが、私たち沿岸出身者は一日も早く、一時間でも早く、被災地で迎えを待つ家族の元に向かいたいのです。

無事を確認できた人もいれば、残念な連絡もあってきました。すもまままならず、お寺にぐに飛んでいきたいのにガソリンがありません。着の身着のまま家を離れ、家族に連絡を取ることもできずに、皆さんも車を使わなければならない事情があるでしょう。しかし、私の友人にも、まだ家族と連絡が取れない人がいます。必死でガソリンを求め、入手情報を得るために明け方から自転車で盛岡市内を走り回っています。

お願いです。不必要に車を乗り回している方はいませんか。もう少し我慢していただけませんか。必要以上の給油は控えていただけますか。内陸の皆さま。沿岸出身者の心からのお願いです。どうぞ力を貸してください。

戦後と重なる沿岸部の惨状

櫻田　智也　34歳　（葛巻町　会社員）

◇テレビをつけた途端、目に飛び込んできた海辺の町の姿は到底受けいれることのできるものではなかった。瞬く間に壊滅し、がつて日本に投下された2発の爆弾と重なり、まだ戦後さえ迎えられていないのかと悲痛な思いになる。

文字通り懸命に作業を続ける人々がいる。誰もが復興を信じ、そして祈っている。ない。原発の事故はかつて日本に投下された2発の爆弾と重なり、まだ戦後さえ迎えられていないのかと悲痛な思いになる。

文字通り懸命に作業を続ける人々がいる。誰もが復興を信じ、そして祈っている。

乗り越えよう震災

声

「声」欄のあて先は盛岡市内丸3の7（〒020―8622）。eメール「ronsetsu@iwate-np.co.jp」。ファクスは019・653・7457。

身内との再会　少しでも早く

佐藤美知友　38歳　（北上市　会社員）

◇被害を受けた皆さんの健康や安否の確認を取れずにいる方々、本当に心配しています。友人や知人の安否は携帯メールで無事である知らせをもらいました。

越喜来にいる身内は無事らしいと言う話は伝え聞いていますが、電話がつながらず、家族一同心配しています。状況確認に沿岸部に行きたくとも、車に入れる燃料を入手するのがとても困難な状況です。支援物資が避難所に行き渡っていないところもあると聞いています。

食料を届けたくてもできません。身内が津波で家を流されたと聞き、人ごとではありません。早く、身内や友人、知人と再会したいと願っています。私のように思っている人は多いと思います。希望を捨てずに頑張るようにお願いしています。

たくさんの救援物資が集結しています。本当にありがたいです。それらが無事に届きますよう願っています。いろいろ大変だけど、皆で震災を乗り越えましょう。頑張りましょう。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。